

「宗教2世」問題について

異端カルト相談窓口 小泉 創

1. 異端カルト宗教2世

2022年7月、安倍晋三元首相を襲った容疑者が、旧・統一協会信者を母に持つ人物だったことから、脚光を浴びることになったのが「宗教2世」問題です。母親が教団に多額の献金を繰り返すことで家族が困窮し、次男の怒りの矛先が安倍元首相に向かいました。母親は子どもたちが生きていくために必要だった金銭を教団につき込んでいました。容疑者は「宗教2世」だったということです。

この言葉自体は、以前から小説、テレビ番組、映画などでも使われていましたが、あまり注目されてきませんでした。いま、信仰の名による虐待、人権侵害が拡がっていることがやっと認知されるようになりました。「子ども達が親から人格を認められない」、「体罰が加えられる」、「親が子どもたちの小遣いやアルバイト代、学資も献金してしまう」、「教育・進学・結婚の自由を奪う」、さらには「性的虐待」なども告発されています。問題の背後にあるのは、不健全な「信仰」であり、その多くは「異端カルト」の教えです。報道されている事例の多くは、世界平和統一家庭連合（旧統一協会）、エホバの証人、幸福の科学など異端カルト団体に関するものです。

親たちは異端カルトに入って鬼のようになってしまったわけではありません。実は彼らも異端カルト被害者で、マインドコントロールされた彼らが、子どもたちには加害者となっているのです。彼らは子どもたちへの愛を失ったわけではありません。愛する子どもたちが滅びないように、「指導者、団体に指示されたように」暴力をふるったり、子どもたちのものを代わりに献金したり、「悪の道」を行かないように「間違った」選択を

することをとどめているのです。彼らは「思考停止」して悩むのをやめていますので、自分たちの行いが子どもたちを深く傷つけ、子どもたち自身の成長の機会や社会で生きていく力を奪い、親子関係を破壊してしまっていることがわかりません。



『「神様」のいる家で育ちました』

(菊池真理子著、文藝春秋) p.6

2. クリスマンと信仰継承

私たちクリスマンにとって、これらの問題は どう関係しているのでしょうか。私たちは当然、次の世代に信仰継承をしたいと願っています。しかし教会や家庭で行われている信仰教育も「宗教2世」問題とひとくくりにしてしまうのは乱暴過ぎます。時に熱心なあまりに行き過ぎてしまうこともあるかもしれません。そうであるなら、私たちは健全な信仰に基づいているから問題がないと済ませてしまわずに、厳しすぎたことを反省する必要があるでしょう。「思考停止」して独善的にな

らずに子どもたちの声に耳を傾け、主にあって祈り、よく考えることが大切です。

神の愛によって差し出された救いを感謝して受け取るのが信仰です。子どもたちがどのタイミングで、どのように受け取るかはみんな違いますから、愛と忍耐をもって伝えていく必要があります。神が愛しておられる大切な子どもたちが、神の愛を受けて与えられた人生をいきいきと歩んでいけるように、神の恵みがそれぞれの家庭に与えられるように、互いに祈り励まし合っていきたいのです。

「父たちよ。自分の子どもたちを怒らせてはいけません。むしろ、主の教育と訓戒によって育てなさい。」（エペソ6：4）

参考文献：

荻上チキ『宗教2世』太田出版

菊池真理子『「神様」のいる家で育ちました』文藝春秋

横道誠『みんなの宗教2世問題』晶文社

自分ごととしてのハラスメント

ハラスメント相談窓口 小岩喜代美

年に一度、キリスト教団体が参加する「ハラスメント防止連絡会」が10月に開催されています。去年は、13団体とオブザーバーとして3団体、あわせて47名の参加がありました。その中には、問題が起きてから対策室や相談窓口を設けたところもいくつかあります。問題が起きる前に未然に防止できれば、傷つく人も教会を去る人も格段に減ることでしょう。そのために、啓発活動の大切さが語られました。ある教団では、ハラスメント防止のパンフレットを配布してほしいと教会に送ったところ、その教会の牧師から「教会にハラスメントがあるはずない」と断られたとか。また、ある教団でも、責任ある立場の信徒が「あるはずないから対策室の必要はない」という意見もあると、認識の違いを担当者の方が憂っていました。

一人でも多くの方に、このニュースレターが届いて、問題意識を持っていただき、健全な教会が建てあげられることを願います。

さて、ハラスメントが起きる人間関係は、「立場が上の人から下の人を」「弱い相手を」支配的にコントロールしようとするのです。これをキリスト教会にあてはめると、「牧師から信徒へ」、「先輩牧師・牧師夫人・信徒から

若い牧師・牧師夫人・信徒へ」という構図になります。相手のために思う霊的指導やアドバイス、または叱咤激励などは、受け取る側が苦痛に感じれば、ハラスメントになってしまいます。教会でのハラスメントについては、前回のニュースレターで詳しく述べています。だれかれのことではなく、自分はどうなのかを主の前に吟味したいものです。

ある精神科医が、パワハラする人の2つの大きな特徴とその解説をしています。ひとつは、「自分が正しいと思い込んでいる人」です。「柔軟性のない人」、「～すべき思考の強い人」と言い換えることができます。本人には、言いすぎたとか、意地悪なことをしているという自覚は全くありません。会社(これを教会に置き換えることができます)にとって良いことで、相手の成長のためと思ってやっているのです。しかし、その裏には、自分の立場や権威によって相手を意のままに従わせようとする思いが隠れています。神様が自由意志を与えてくださった人間を、自分の意のままに操ろうとするのは傲慢であり、人権侵害につながるようになります。

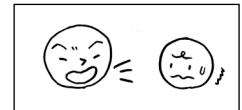
もうひとつの特徴は、「相手の気持ちを考えら

れない人」です。たとえば、牧師・牧師夫人や信仰の先輩に思い切って悩みを打ち明けたとき、「それはあなたの祈りと信仰が足りないから」と言われたら、どんな思いがするのでしょうか？「おっしゃるとおりだ、悔い改めて励もう」と思う人もいれば、「そうかもしれないけど・・・」と傷つく人もあるでしょう。ひどく心を痛めて教会を去ってしまう人がいるかもしれません。相手の気持ちに配慮することは人間関係においてとても大切です。イエス様がエマオ途上の弟子たちと共に歩みながら聖書を解きあかし、弟子たちの心が燃やされた場面があります。相手を自分の方へ引き寄せようとするのではなく、まずは相手に寄り添うことから始め、心の内側にあるものを引き出し、その人にふさわしい言葉を語りたいものです。

パワハラ的行為者にとっては、ささいなことから始まって、強く言えば従うという成功体験が

度重なり、関係性がだんだんと強化されていくこととなります。被害者側は、「蛇ににらまれた蛙」のように身動きできない状態になってしまいます。つらい思いが高じてくると、行為者の姿が見えるだけでも苦痛となってしまいます。自責感の強い人なら、うつ状態になりかねません。

相談室では、どんなささいなことでも、心の傷口が大きくならないように対処したいと願っています。自分側の問題とあきらめずに、ハラスメントかどうかの問い合わせをするだけでも、人に話すことで客観的にとらえることができます。また、自分は何も悪くないと思っている人は変わりませんので、被害者側がただ忍耐するだけでは解決しません。心の安定を保ち、適切な対応をするために、ぜひご相談ください。秘密は厳守いたします。



よくある質問 信頼できるサイトの見分け方

相談室相談室長 小岩裕一

Q YouTubeなど「キリスト教」の情報で、信頼できるサイトを見分ける方法がありますか？

A 残念ながら、見分けることは困難です。ただし、対処方法があります。

1、困難な実態

(1)キリスト教と異端・カルトの情報の混在

ネット上では「キリスト教」の情報の中に「異端・カルト」情報が紛れ込んでいます。近年、この傾向はますます巧妙、顕著になっています。キリスト教会のYouTubeチャンネルの隣に、多数の異端・カルトのチャンネルが並んでいることに驚きます。「キリスト教」の情報が「異端・カルト」の情報に汚染されていると言ってよいでしょう。ますます、見極めるのが難しくなっています。

(2)異端・カルトの情報量の増大の危険。

キリスト教会、教派・教団、超教派団体はホームページを更新するのが精一杯です。しか

し、異端・カルトのホーム・ページは、豊富な資金・人材・技術を駆使して、「きれいで見やすく、分かりやすく魅力的な情報」を更新し続けています。「質」だけではなく「量」も、キリスト教会を凌駕しています。異端・カルトは、検索の上位になるための研究、工夫もしています。

私たちキリスト者が注意することは、ネットで「キリスト教」「聖書」検索する情報の中に、異端・カルトの方が多いという実態です。一般社会の人も、異端・カルトの情報を検索し情報を得て、そこに入っていき人の方が、教会よりも多いということになります。それは、近年の信者数にも現れています（異端・カルトは実数を公表しません）。

(3)「グレーゾーン」の問題

「キリスト教」、「クリスチャン」と自称しても、「偽り」もあります。三位一体の否定は、異端と断定できます。断定できない「グレーゾーン」を、一言で言うと、今まで聞いてきた

福音とは「何となく違う」と感じる時です。この「グレーゾーン」部分は、人によって「厳格」～「寛容」と幅があり、評価が分かれています。ですから、事実を確認し慎重に判断する必要があります。安易な結論は危険です。

「何となく違う」違和感を感じながら、「新しい時代の新しい真理」と紹介されると魅力的に感じます。混迷し停滞した時代で、教会も自分自身も萎縮傾向にあり、その「新しい時代の新しい真理」が、教会と自分の信仰の「起死回生」につながるかのように感じます。そうなれば良いのですが、その情報を鵜呑みに信じた結果、キリスト者や教会が高慢、独善、分裂、混乱状態になっているとすれば、「偽り」であると言わざるを得ません。主イエスは結ばれた実で判断するように警告しています（マタイ7・15-20）。

(4)自分が偽りの情報を拡散しないように

「真実なニュースよりも、フェイク・ニュースの方が、広く早く拡散する」と情報学の研究で証明されています。キリスト教の情報も同じです。キリスト教会も多くの人に福音を伝えたいので、ネットによる「情報拡散」を活用します。

私たちキリスト者が注意することは、自分が受け取った情報の中に、キリスト教「フェイクニュース」や「異端・カルト」の情報が紛れてしまっていることです。その情報を検証もせず、安易に他人に拡散することは無責任です。ネット上の情報管理は「自分は大丈夫」と高を括らないで、細心の注意が必要です。

2、対処方法

(1)自分だけの判断ではなく、相談してみる

「なんとなく違う」と感じた時に相談することです。異端・カルトにだまされてしまった人は、この「グレーゾーン」にいる時に「思考停止状態」になり、気がついた時には、戻れなくなってしまったのです。異端・カルトは、最初の接触段階から、プライバシー情報を取得し、「他人に相談しないように」徹底的に管理しています。

「グレーゾーン」の対処方法は、自分自身の知識や感情にだけに頼らずに、速やかに、この問

題を理解している信頼できる複数の人に相談してみることです。そして、自分自身でも慎重に調べて判断することです。総務局相談室（異端・カルト、ハラスメント問題）も、この時期に相談してくださったことで、解決した人がいます。

(2)聖書に学ぶ

聖書は、福音を提示すると共に、偽預言者、偽教師、偽キリストなどの偽者を警告しています。キリスト者は「偽者のレッテルを貼って」批判するのではなく、自己吟味すると共に、異端・カルトの人たちにも福音を伝えることが大切です。

聖書に啓示され使徒たちが伝えた福音を正しく理解することで、「グレーゾーン」問題の真偽を見極めることができます。「本物」を知っていなければ、「偽物」を見分けることはできません。聖書を自分の所属教会でしっかりと学ぶことが求められます。

(3)相談室の対処方法

「グレーゾーン」の指導者や集団を「異端・カルト」と断定するためには、被害実態、教理の逸脱、カルト的体質などを解明する必要があります。「断定」が難しくても、「注意喚起レベル」の集団が多くあります。相談室では、問い合わせには応じることができます。このような問題は一人の力では困難です。真実な主を信頼しつつ、急がず、諦めないで、忍耐しながら、対処していくことです。

参考：下記で検索すると信頼できる情報を得ることができます。

「日本イエス・キリスト教団総務局相談室異端・カルト相談窓口」「異端・カルト110番」

「クリスチャン新聞web版」「キリスト新聞」

総務局 相談室 ハラスメント・牧会相談窓口HP

<https://soudan.jccj.or.jp/>

過去のニュースレターも

ダウンロードできます。

ニュースレターに関するお問い合わせは、
仙台国見教会・小泉までお願いします。

